

きになる梨情報

第69号 令和4年10月7日 県南農林事務所 経営・普及部門(土浦地域農業改良普及センター)

黒星病・炭疽病の秋季防除を開始していますか

1. 黒星病

9月下旬現在、発病葉率は県南地域で平年より高くなっています。

【落葉処理】

- 唯一、越冬する病原菌の密度を下げる可以降低できる対策です。
- 富山県の研究によって、落葉の残存量が少ないほど翌春の果そう発病率が低いことが明らかとなり、落葉の残存量は「収集・持ち出し処分」が最も少なく、次いで、「粉碎（2回）」、「中耕すき込み」「粉碎（1回）+中耕すき込み」の順に少ないことが報告されています。

【ポイント】

原形をとどめた落葉を残さない

【薬剤散布】

- 芽りん片の露出部に病原菌が感染するのを「予防する」対策です。
- 耐性菌発生を防ぐため、DMI剤やQoI剤の使用は避けましょう。
- 薬剤散布は10月中旬～11月上旬ごろまで（目安：落葉80%まで）に2～3回実施し、新梢先端部の芽まで薬剤が付着するよう、丁寧に散布しましょう。なお、落葉の進み具合は気温の推移によって変わるため、落葉状況をよく確認して、散布終了時期を判断してください。

来春に向けての注意点

生育が前進化しても生育ステージに合わせた初期防除を実施できるよう、冬季の管理作業を計画的に進めましょう。

2. 炭疽病

9月下旬現在、昨年度より発生が少ない状況ですが、ほ場や樹によっては炭疽病による落葉が見られます。

【落葉処理】

- ◆ 越冬菌の密度を下げる対策として、黒星病と同様に「落葉処理」を徹底しましょう。
- ◆ 生育期の風通しや薬剤付着性が向上するように、罹病樹を整枝剪定する際には、側枝の配置密度を下げるように工夫しましょう。

剪定時は健全樹と見分けづらいため、罹病樹には印をつけておきましょう！

【薬剤散布】

- ◆ 秋季防除の薬剤は、防除効果が確認されているQoI 剤は耐性菌発生を防止するために避けましょう。

なしに登録のある薬剤の例【殺菌剤】

農薬の登録情報 令和4年10月1日 現在

対象 病害虫	薬剤名	希釈 倍数	使用時期	使用回数	有効 成分	総使用 回数	FRAC コード
炭疽病 黒星病 輪紋病	オキシラン水和剤	500 倍	収穫3日前 まで	9回以内	キアゾラ	9回以内	M4
					有機銅	12回以内（但し、 塗布は3回以内、 散布は9回以内）	M1
炭疽病 黒星病 輪紋病	デランフロアブル	1000 倍	<u>収穫60日 前まで</u>	4回以内	ジチアノ	5回以内	M9
炭疽病 黒星病	チオノックフロアブル トレノックスフロアブル	500 倍	<u>収穫30日 前まで</u>	5回以内	チオラム	5回以内（但し、 休眠期は1回以 内）	M3
黒星病	アントラコール 顆粒水和剤	500 倍	<u>収穫45日 前まで</u>	4回以内	アピラ	4回以内（但し、 休眠期は1回以 内）	M3

◎ 農薬の使用回数のカウントは収穫後から始まります！

◎ 来年度のシーズンに使用する薬剤（薬剤の使用回数）を考慮して、薬剤を選択しましょう。

なし（無袋栽培）に登録のある薬剤の例【殺虫剤】

農薬の登録情報 令和4年10月1日 現在

対象 病害虫	薬剤名	希釈 倍数	使用時期	使用回数	有効 成分	総使用 回数	IRAC コード
ハルハシ類	スミチオン 水和剤40	1000 倍	<u>収穫21日前まで</u>	6回以内	MEP	6回以内	1B

◎ 来シーズンのための害虫防除を秋季に行いましょう。

◎ チオノックフロアブル及びトレノックスフロアブルは、スミチオン水和剤40との混用事例がありません。スミチオン乳剤との混用事例があります。

この資料の作成にあたっては、農薬使用基準の内容について細心の注意を払っていますが、農薬を使用する方は、必ず、使用する前にラベルを見て、対象作物、希釈倍数や使用量、使用時期、使用回数等を確認し、農薬の誤った使用を行わないようにしてください。また、農薬の安全性評価に新たな手法として短期暴露評価が導入されることとなりました。それにとともに、農薬によっては使用できなくなる作物が生じたり、使用方法の変更が行われる場合があります。短期暴露評価により使用方法が変更された農薬は、農薬容器のラベルに記載された使用方法ではなく、変更後の使用方法が記載されたメーカーのチラシ等、最新の情報に従って使用してください。最新の情報は、農薬の販売店等や茨城県（病害虫防除所）のホームページ等で確認してください。なお、農薬散布の際は、周辺作物等への飛散（ドリフト）に十分注意して下さい。